

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-276834

(43) 公開日 平成10年(1998)10月20日

(51) Int.Cl.⁶
A 4 5 D 33/00

識別記号
6 5 0
6 4 0

F I
A 4 5 D 33/00

6 5 0 F
6 4 0

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-91785

(22) 出願日 平成9年(1997)4月10日

(71) 出願人 000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72) 発明者 柚原幸知

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

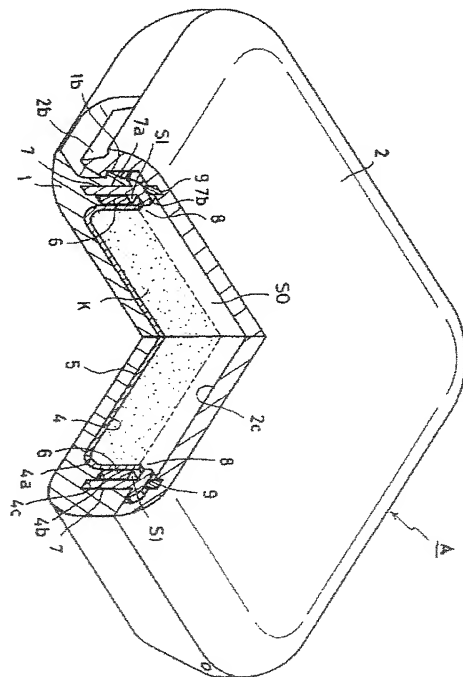
(74) 代理人 弁理士 中川 周吉 (外1名)

(54) 【発明の名称】 結露垂れ防止コンパクト容器

(57) 【要約】

【課題】 本発明の課題は、吸湿剤を蓋体の天面に露出させることなく美観を保ち、厚みを薄く押さえることができる一方、吸湿性能を維持することができるコンパクト容器を提案することにある。

【課題手段】 本発明は、揮発性溶剤を含有する化粧料Kを保持する容器本体1と蓋体2とを有し、吸湿剤6を前記容器本体1の一部に形成した取付空間S1に載置し、容器空間S0と前記吸湿剤の取付空間S1とを連通する通気孔8を前記化粧料Kの周囲に開口した結露垂れ防止コンパクト容器を構成して上記課題を解決する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】揮発性溶剤を含有する化粧料を保持する容器本体と蓋体とを有し、吸湿剤を前記容器本体の一部に形成した取付空間に載置し、容器空間と前記吸湿剤の取付空間とを連通する通気孔を前記化粧料の周囲に開口したことを特徴とする結露垂れ防止コンパクト容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、揮発性化粧料を保持するコンパクト容器に関するものであって、特に容器本体の化粧料から揮発し、蓋体の天面に結露した水分、油分等の溶剤が化粧料の表面に落下する結露垂れを防止することができるコンパクト容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、水分を始め溶剤を多く含有する化粧料が、使用感の良好さから人気を博しており、この種の化粧料が気密性を高めたコンパクト容器に保持され、商品化されるに至っている。しかし、一方で、このような化粧料は溶剤が揮発しやすく、容器内部で揮発した溶剤は蓋体天面に接触してその表面で結露し、これが化粧料の表面に無造作に落下して（結露垂れ）、化粧料の表面に結露垂れのシミを形成して大きく美観を損ねるという問題があった。

【0003】かかる結露垂れを防止する従来方法として、特開平 7-184717 号公報に示すようなコンパクト容器が提案されている。このコンパクト容器は、吸湿剤を容器本体に保持した化粧料と蓋体との間、より具体的には蓋体の天面に取り付けており、化粧料から揮発した溶剤をこの吸湿剤が取り込んで、溶剤がコンパクト容器内で結露することを防止するものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】かかる従来のコンパクト容器は、化粧料と蓋体との間に吸湿剤を露出させて取り付けているために、化粧料から上方へ揮発する溶剤を効率よく取り込むことができる一方、吸湿剤をシート状に形成し、蓋体の天面に取り付けているために、吸湿剤が蓋体に露出して美観を害するという問題があった。また、吸湿剤上にカバーをつける等して美観を整えることも考えられるが、蓋体が厚くなってしまい、携帯を考慮して薄くする必要のあるコンパクト容器には向かないという問題点もあった。

【0005】そこで、本発明の目的は、吸湿剤を蓋体の天面に露出させることなく美観を保ち、蓋体の厚みを薄く押さえることができることに加えて、吸湿性能を十分に発揮することができるコンパクト容器を提案することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、揮発性溶剤を含有する化粧料を保持する容器本体と蓋体とを有し、吸湿剤を前記容器本体の一部に形成した取付空間に載置

し、容器空間と前記吸湿剤の取付空間とを連通する通気孔を前記化粧料の周囲に開口した結露垂れ防止コンパクト容器を構成して上記課題を解決している。

【0007】

【発明の実施の形態】本願発明に係るコンパクト容器の実施例を図を用いて説明する。図 1 は第 1 実施例に係るコンパクト容器の一部断面斜視図、図 2 は第 1 実施例に係るコンパクト容器の側断面図である。

【0008】図 1 並びに図 2 に示すように、コンパクト容器 A は、容器本体 1 と該容器本体 1 を気密に保つ蓋体 2 からなり、それぞれポリプロピレン等の合成樹脂により形成されている。これら容器本体 1 と蓋体 2 の一端にはヒンジ部 1 a、2 a が設けられ、この部分に回動軸 3 を通すことによって両者を枢着している。また、これら容器本体 1 と蓋体 2 の他端には、係合突起 1 b と係合爪 2 b が形成されており、両者は蓋体 2 を回動させて容器本体 1 に重ねた場合に係合し、コンパクト容器 A の閉状態を維持することができる。なお、蓋体 2 を閉じることにより、容器本体 1 との間に容器空間 S 0 が形成される。

【0009】容器本体 1 は、中央に平面四角形のくぼみ部 4 が形成される。このくぼみ部 4 は化粧料 K を保持する化粧皿 5 を嵌め込むことができる第 1 くぼみ部 4 a と、その外側に形成される吸湿剤 6 を載置する第 2 くぼみ部 4 b、さらに外側に形成されるリングカバー 7 を取り付ける第 3 くぼみ部 4 c とから構成される。第 1 のくぼみ部 4 a に、化粧皿 5 を取り付けるとその外側面とくぼみ部 4 の周壁面との間には、第 2 くぼみ部 4 b、第 3 くぼみ部 4 c の分、隙間が形成され、この隙間に吸湿剤 6 およびリングカバー 7 を嵌め込んで固定する構造となっている。

【0010】化粧皿 5 は例えばファンデーション等の化粧料 K が充填されて保持されている。なお、この化粧料 K は溶剤を多く含み、揮発性を有するものである。化粧皿 5 は、例えば接着剤や両面テープ等を用いて、くぼみ部 4 内に固定される。吸湿剤 6 は、湿気を吸収する材質、例えば吸水性ポリマー等の吸水性物質や湿気を吸収する多孔性物質を化粧皿 5 の外寸に合わせて平面四角形に形成した環状体である。

【0011】また、リングカバー 7 は断面 T 字状を有し、同様に平面四角形の環状枠体である。このリングカバー 7 は、下方に伸びた足片 7 a と水平方向に伸びたフランジ片 7 b とから構成され、足片 7 a を吸湿剤 6 の外側面とくぼみ部 4 の内側面との間に圧入して固定される。このとき、フランジ片 7 b は、吸湿剤 6 の上方を覆い、外観に吸湿剤 6 が現れることを防止している。

【0012】なお、足片 7 a と化粧皿 5 との間に形成される空間 S 1 が吸湿剤 6 の取付空間となる。また、フランジ片 7 b と化粧皿 5 との間に形成される空間が、容器空間 S 0 と吸湿剤 6 が取り付けられた空間 S 1 とを連通

する通気孔 8 となる。

【0013】蓋体 2 は、その天面 2 c に環状ガスケット 9 を固定している。この環状ガスケット 9 は弾性に富むゴム材等により形成されたものであって、容器本体 1 のくぼみ部 4 に嵌着したリングカバー 7 と同一平面形状を有する環状体である。この環状ガスケット 9 は、蓋体 2 を閉じた際、リングカバー 7 のフランジ片 7 b 上面に圧着し、化粧皿 5 を包囲するように、容器本体 1 と蓋体 2 との間に形成される容器空間 S 0 を気密に保つ構造となっている。

【0014】次に、本実施例のコンパクト容器 A の作用を説明する。コンパクト容器 A が気温の高い場所に置かれると、化粧料 K から水、油分等の溶剤が揮発する。そして、気密が保たれているコンパクト容器 A の容器空間 S 0 に揮発した溶剤が充填すると、揮発した溶剤は通気孔 8 を通して空間 S 1 に達し吸湿剤 6 と接触し、吸湿剤 6 は、溶剤を吸収して容器空間 S 0 内の揮発溶剤濃度を低く保つ。このため、気温が低くなるなどしてコンパクト容器 A が冷却されても、蓋体 2 の天面 2 c に結露しにくく、結露垂れを防止することができる。

【0015】本実施例のコンパクト容器 A では、吸湿剤 6 を蓋体 2 ではなく、容器本体 1 に取り付けているために、蓋体 2 を厚くすることなく、全体として薄いコンパクト容器を構成することができる。特に、本実施例では、吸湿剤を環状体とし、化粧皿 5 の外側に外嵌させているために、吸湿剤 6 の厚さがコンパクト容器 A の厚さに影響を与えることなく、薄いコンパクト容器とすることができる。

【0016】さらに、通気孔 8 が化粧皿 5 を全周に渡って取り囲むように連続スリット状に形成されているために、化粧皿 5 の表面から揮発した溶剤を吸湿剤 6 が効率よく吸収することができる。また、本実施例のコンパクト容器 A では、リングカバー 7 が吸湿剤 6 の上方を覆うために、吸湿剤 6 が外観に現れず、美観に優れたコンパクト容器となる。

【0017】なお、容器内部の揮発した溶剤の濃度が反対に低くなると、吸湿剤 6 が吸収された溶剤は再度放出され、容器内部の揮発溶剤濃度を所定の値に保つことができる。このため、化粧料 K の表面が乾燥してしまうことを防止して、常に化粧料 K を使用勝手の良好な状態に保つことができる。

【0018】本実施例では、吸湿剤 6 の内側面、外側面はそれぞれ化粧皿 5、リングカバー 7 に面接させて位置決め固定しているが、例えば、吸湿剤 6 を化粧皿 5、リングカバー 7 にリブや突起を設けて吸湿剤 6 を位置決めする構成とすれば、吸湿剤 6 の側面を空間 S 1 に露出させることができ、揮発した溶剤の吸収作用に寄与する表面積を増加させて、より効率よく揮発した溶剤を吸収することができる。

【0019】本願発明の第 2 実施例を図 3 を用いて説明

する。図 3 は、第 2 実施例にかかるコンパクト容器の側断面図である。本実施例のコンパクト容器 B は、蓋体 2 の天面 2 c に結露した水滴を排除する凹面 10 を形成したことを特徴とする。なお、第 1 実施例と同じ構成は、同一の符号を付して説明を援用する（以下の実施例においても同様）。

【0020】蓋体 2 の天面 2 c には、環状ガスケット 9 の内側に凹面 10 が形成されている。この凹面 10 は化粧皿 5 の平面形に合わせて略四角形状を有し、その中央部の、最も高くなった天頂部 10 a と、最も低くなった周縁部 10 b との間になだらかに湾曲した傾斜面 10 c が形成されている。

【0021】本実施例によれば、化粧料 K から揮発する溶剤の揮発量が多く、蓋体 2 の天面 2 c に結露してしまっても、結露した水滴は自重により凹面 10 の傾斜によってその周縁部 10 b へ流れる。そして、水滴は、凹面 10 で最も低い部分、すなわち周縁部 10 b に達したところで、化粧皿 5 の周縁部に自然落下する。

【0022】このように、吸湿剤 6 の吸湿性能を上回る速度で溶剤が揮発し、蓋体 2 の天面 2 c への結露が発生しても、凹面 10 が結露した水滴を化粧皿 5 の周縁まで導いて落下させるために、化粧皿 5 の表面に無造作に結露垂れが発生することを防止することができ、もって、化粧皿 5 表面の美観を保つことができる。

【0023】次に、本願発明の第 3 実施例を図 4 を用いて説明する。図 4 は、第 3 実施例にかかるコンパクト容器の側断面図である。本実施例のコンパクト容器 C は、吸湿剤を載置する空間を化粧皿 5 の下側に設けたことを特徴とする。

【0024】図 4 に示すように、容器本体 1 のくぼみ部 11 は、載置すべき化粧皿 5 より一回り大きい外寸を有する。そして、その周縁部に複数のリブ 11 a を張り出して形成することにより、載置した化粧皿 5 を位置決めし、かつ、リブ 11 a 間に通気路 S 2 を形成する構造となっている。

【0025】また、くぼみ部 11 の底部中央には底上げ部 12 が形成されており、化粧皿 5 を載置した場合、この底上げ部 12 と化粧皿 5 の底とを接着して化粧皿 5 が脱落しないように固定する。このとき、化粧皿 5 とくぼみ部 11 の底部との間には空間 S 3 が形成され、この空間 S 3 は前記通気路 S 2、さらに化粧皿 5 とリングカバー 14 との間に形成される通気孔 8 を介して、容器空間 S 0 に連通する。

【0026】吸湿剤 13 は中央に開口部 13 a が形成された板状体であり、この開口部 13 a をくぼみ部 11 の底部の底上げ部 12 に外嵌するように、くぼみ部 11 上に固定している。吸湿剤 13 の厚さは、底上げ部 12 の高さより薄く、化粧皿 5 を載置した場合に、両者間に隙間が生じ、吸湿剤 13 の上面が上記した空間 S 3 に露出する構造となっている。

【0027】以上のように形成された第3実施例のコンパクト容器Cでは、吸湿剤13をシート状としたため、容器空間S0に連通した空間S3に対する露出面積が大きくなり、揮発した溶剤をより効率良く吸収することができる。

【0028】本実施例でも、くぼみ部11の底面にリブや突起を設けて吸湿剤13の裏面との間に隙間を設ければ、吸湿剤13の露出面積をより大きくすることができ、さらに吸湿効率を向上させることができる。

【0029】なお、上記いずれの実施例においても、通気孔8を化粧皿5の周囲に連続スリット状に形成したが、通気孔8の形状はこれに限定されるものではなく、複数の小孔を形成し、また、網目状に複数の小穴を形成するなど多様な構成を選択することができる。また、コンパクト容器の形状も平面四角形に限られるものではなく、円形や楕円形等、多様な形状を選択できることは勿論である。

【0030】

【発明の効果】本願発明のコンパクト容器は吸湿剤を容器本体側へ載置しているために、蓋体側に吸湿剤を設ける場合に比べて、蓋体を薄く形成することができる。また、吸湿剤は、容器本体に形成した空間内に載置し、通気孔を設けることで、吸湿剤が外観に現れにくく、もって、意匠的に優れたコンパクト容器を構成することができる。

【0031】さらに、容器空間と吸湿剤の取付空間とを*

* 連通する通気孔を、化粧料の周囲に形成したので、確実に揮発した溶剤を吸湿剤に取り込むことができ、蓋体の天面に結露が生じることを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例に係るコンパクト容器の一部断面斜視図である。

【図2】第1実施例に係るコンパクト容器の側断面図である。

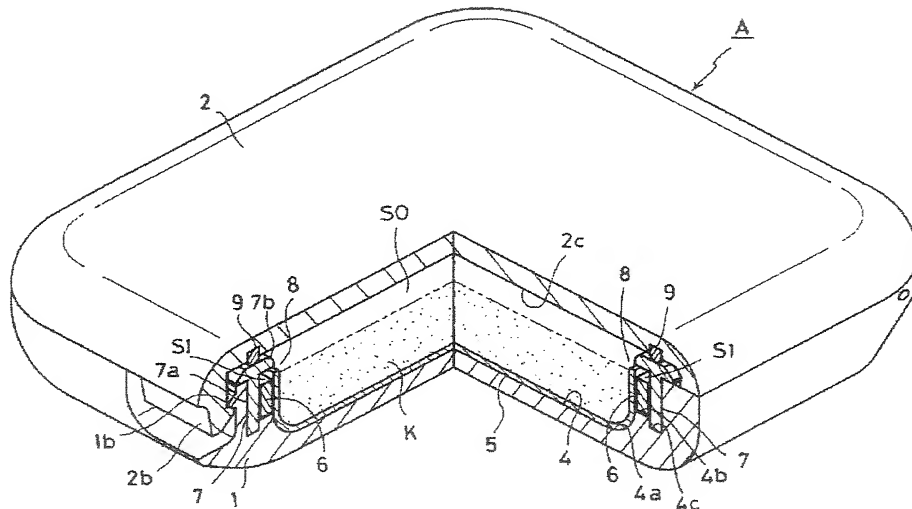
【図3】第2実施例に係るコンパクト容器の側断面図である。

【図4】第3実施例に係るコンパクト容器の側断面図である。

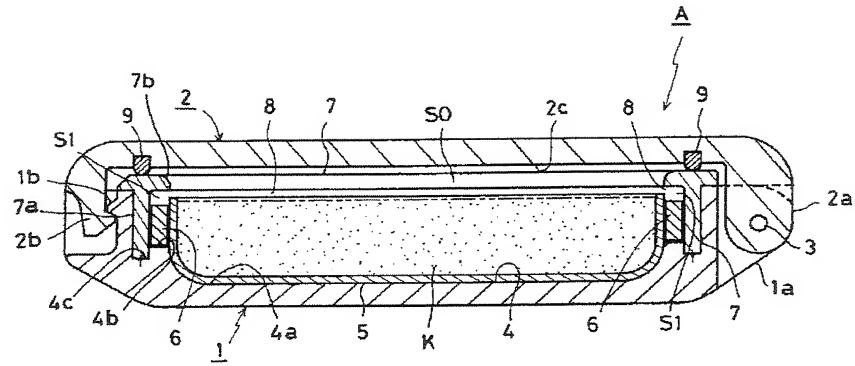
【符号の説明】

A、B、C	…コンパクト容器
K	…化粧料
S0	…容器空間
S1、S3	…空間（吸湿剤の取付空間）
1	…容器本体
2	…蓋体
2c	…蓋体天面
4	…くぼみ部
5	…化粧皿
6、13	…吸湿剤
7	…リングカバー
8	…通気孔
9	…環状ガasket

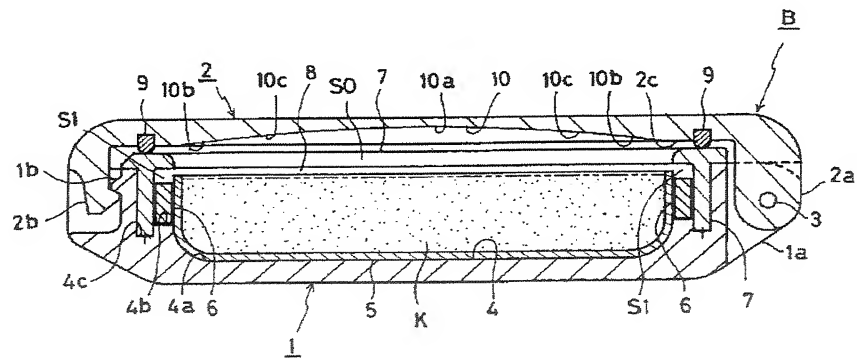
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

